

思考力を高める現代社会の指導の工夫
—チャートとKJ法を利用した学び合いを通して—

高校教育研究係

峯川 浩一 (高等学校教諭)

I 主題設定の理由

勤務校の生徒の実態として、抽象的な思考力を身に付けていないことから現代社会の学習を進めていく上で重要な社会的な事柄について深く考えられないという課題がある。

こうした状況の原因には知識の少なさよりも、社会で起こっている様々な問題や事象について向き合っている習慣や機会が無いこと、考え方自体が身に付いていないことがあると言える。なぜなら、教師が考える道筋を示しながら説明すれば、その内容や考え方をほとんどの生徒が理解できるからである。

これから生徒は社会人となり、選挙や国民審査での投票、そして裁判員となることなどで主体的な判断を求められるようになる。今後社会に参画し自立していくためには様々な事象について、その影響や問題点を考察し、自分なりの考えをもつことが必要である。新学習指導要領においても現代社会の基本的問題について主体的考察力と、公正な判断力を育てることが目標として記載されており、社会的事象に対する関心をもち多様な角度から思考する機会を取り入れることが求められている。

上記の点を踏まえ、現代社会の授業の中で生徒の思考力を高められる教材とその活用方法を研究したいと考え主題を設定した。

II 研究のねらいと課題解決策

1 研究のねらい

生徒に新聞やテレビで報道されている時事的な問題に対し自分なりの考えをもたせ、社会的な影響に考えが及ぶようにし、課題を探究できるようにする。個人としての意見や感想だけではなく、身近な地域や国、そして世界全体にもたらす影響について広い視野をもって多面的・多角的に考え、情報を鵜呑みにするだけでなく批判的な見方もできるようにしたい。

2 課題解決策

- (1) 教材に新聞やテレビなどで報道された時事問題を使用し、教科書の内容に結び付け、自分自身の生活にどう影響を及ぼしているかに気付かせる。
- (2) グループでの学習によって多様な考えを知り、集団で考えを高める。(学び合い)

下記の①～④を1サイクルとし、7～11月の間に4回程度繰り返す

① 付箋に個人の考えを記入

生徒に3枚ずつ付箋を配付し、与えられた課題に対し生徒個人の考えを記入させる。

② チャート*1(次項)を使用して生徒の考えを発展

①での生徒の考えを分類したシート*2(次項)をフィードバックし社会的な問題に結び付けるためにチャートを使用する。
[生徒から出された意見は主観的なものが多いと予想されるため、社会的な問題に結び付けられるようにする。]

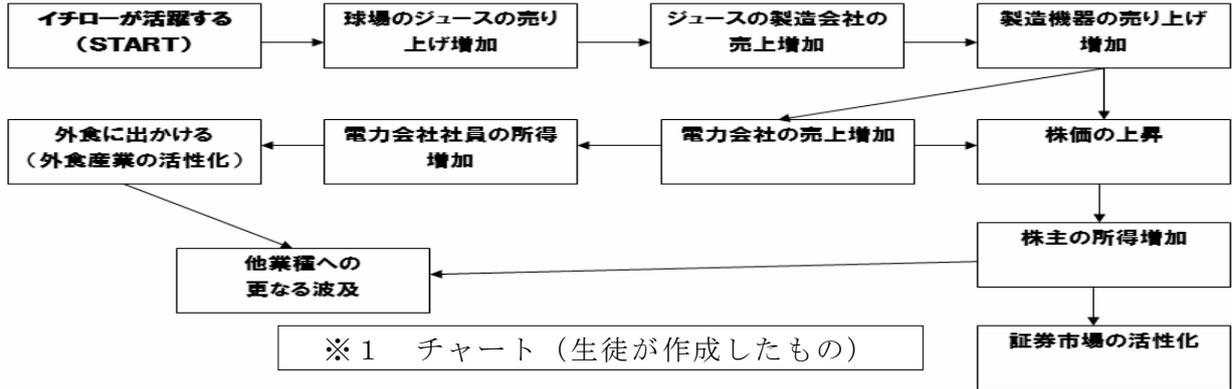
③ KJ法を用いてグループで学び合い

「〇〇が社会に与える影響」といったテーマで付箋に考えを記入させ、KJ法による分類を4～5名程度のグループで行わせる。グルーピングでは①で社会的な意見を多く上げることができた生徒が分散する形とし、学び合いで思考を高められる形態を工夫する。

④ グループごとの発表と全体意見調整

グループ毎に出された意見について発表させ、全体の意見を個人的なもの和社会的なものに分類する。

チャート イチロー活躍の経済効果



(3) 思考を促すワークシートを通常の授業の中でも活用する。

- ・授業プリントに、ある課題について多角的に考えられるように支援する形式を導入する。

(例) Aが起こったらあなたの家族にはどんな影響があるだろうか？
 → (生徒の考え)
 Aによって影響を受けるのはどんな会社があるだろうか？
 → (生徒の考え)
 Aによってある会社が影響を受けると、そこからどんな影響が広がるだろうか？
 → (生徒の考え)

3 検証方法

- (1) 生徒から出された意見を評価基準に基づき数値化することで、生徒の記述にどんな変化が見られたのかを質的に検証する。
- (2) 定期テストの解答の変化を通して質的に検証する。
- (3) 生徒から出された意見の量的変化 (=付箋の枚数) から検証する。
- (4) アンケートによる生徒の自己評価(取組の中盤と最後に実施)から検証する。

Ⅲ 課題解決のための具体的実践

※評価の点数は評価基準のAを3点、Bを2点、Cを1点、Dを0点として計算した。

1 質的検証のための取組 (授業)

(1) 導入

①導入1 (個人作業)

「新型インフルエンザが流行すると社会にどんな影響があるか」について1人付箋3枚ずつ記入させる。

②導入2 (グループ作業、各グループ4名、グループ構成は無作為)

導入1で出された意見を個人的要素の強いものから社会的要素の強いものまで段階的に分類したシート※2を配付。特に社会的要素の強い意見に着目させ、グループで社会的な影響について1人3枚ずつ考えさせ、KJ法を用い分類させる。

新型インフルエンザの流行で困ること				
個人的				社会的
1 嫌だ	姉弟にうつる	映画館に音が来ない	業績が悪化して会社が倒産する	業績が悪化する会社が増え税収が減る
2 熱が出る	両親にうつる	交通機関がガラガラ	社員が来なくて会社が困る	
3 学校に行けない	親が仕事を休む	必要な店以外音がか来ない	マスク会社が儲かる	
4 友人に会えない	マスクが騒音すぎる	病院が混雑する	マスク会社が儲かる	
5 家にいるのは飽きる	膝のイメージダウン	医者は大変だ	新薬の製造に関与しない	
6 辛い				
7 だるい				
8 避へない				
9 ゲームばかりで飽きる				
10 なんとなく嫌だ				
11 熱が出て辛い				
12 外出できない				
13 部活ができない				
14 友人に会えない				
15 やりたいことが制限される				
16 人が多いところにでかけられない				
17 死ぬのは嫌だ				
18 海外旅行に行けない				
19 アニメの声優が移ると困る				
20 避へない				
21 接されたくない				
22 歌を歌えなくなる				
23 豚丼が食べられない				
24 学校を休みたくない				
25 体調不良でやせてしまう				
26 授業で見たい番組がぶれる				

意見の減少イメージ

※2

(2) 実践

①実践1 (グループ作業、各グループ4名、グループ構成は無作為)

「イチローの給料が安いと思うか高いと思うか」についてそれぞれの立場での意見と、「なぜ球団はイチローに高い給料を払うのか」について自分の考えを付箋に記入させる。【評価平均 0.8 (3点満点)】

②実践2 (グループ作業、各グループ4名、グループ構成は各グループのメンバーの評価の平均値が均等になるよう調整)

「イチローの活躍で儲かる人と損する人」の両方について、最初に各自1枚ずつ付箋に記入させる。その後、1枚目の付箋に書かれた内容の影響がどう社会に広がっていくかを更に2枚ずつ記入させる。

【評価平均 1.3 (3点満点)】

③実践3 (個人作業)

実践2の内容を発展させ、「イチローが活躍すると…」の後に各自付箋を10枚使いチャートを完成させる作業を行う。

【評価平均 2.2 (3点満点)】

④実践4 (グループ作業、各グループ4名、各グループともこれまでの取組の評価平均が同程度になるように構成)

「巨大台風が上陸した時のプラスとマイナス要素」について、各自3枚の付箋を配付し、そのうち1枚にマイナス要素を2枚にプラス要素を記入させ、KJ法で分類させる。

【評価平均 2.4 (3点満点)】

⑤実践5 (個人作業)

実践4の内容を発展させ、「巨大台風が上陸すると…」の後に各自付箋を10枚使いチャートを完成させる作業を行う。ただし、プラス要素を5枚、マイナス要素を5枚という条件を付ける。

【評価平均 2.2 (3点満点)】

2 質的検証のための取組 (テスト)

(1) 1学期期末テスト

1学期期末テストに「年功序列型賃金から能力給の時代となったらあなたは どう思うか」について200字程度論述させる問題を出題。

【評価平均 0.9 (3点満点)】

(2) 授業内テスト

2学期中旬の授業で「芸能人が薬物の所持や使用で相次いで逮捕されたが、あなたは このことがどう社会に影響を及ぼすと思うか」について、200字程度論述させる問題を出題。

【評価平均 2.1 (3点満点)】

(3) 2学期期末テスト

「消費税が今後1.5%まで増税されたら社会にはどんな影響があるか」について200字程度論述させる問題を出題。

【評価平均 1.8 (3点満点)】

3 量的検証のための取組

質的検証のための取組 (授業) の実践3と実践5で、配付した10枚の付箋のうち、何枚に記述することができたか記録した。

【実践3 平均枚数8.2枚 (10枚中)】

【実践5 平均枚数8.7枚 (10枚中)】

4 生徒の自己評価

(1) 「質的検証のための取組 (授業) 実践3」の中でのアンケート

①イチローの活躍が社会に様々な影響を与えることが理解できましたか？

【評価平均 2.4 (3点満点)】

②イチローの活躍が社会にどんな影響を与えるか自分で考えられましたか？

【評価平均 2.1 (3点満点)】

(2) 「質的検証のための取組 (授業) 実践5」の中でのアンケート

①台風のように一見するとマイナスの出来事でも、実はプラスも含め様々な影響を社会に及ぼしている

ことが理解できましたか？

【評価平均 2.3(3点満点)】

②「台風上陸」による社会への様々な影響を自分で考えられましたか？

【評価平均 2.3(3点満点)】

※評価基準

- A:与えられた課題について多面的・多角的な視点からとらえ考えて、論理的に表現できる。(3点)
- B:与えられた課題について多角的にとらえ、自分なりに表現しようとしている。(2点)
- C:与えられた課題について個人的、主観的な考え方にとどまり、表現の内容が不十分。(1点)
- D:無回答、無記入(0点)

IV 研究の成果と課題

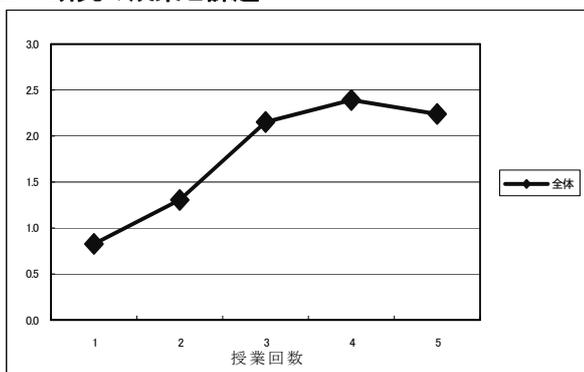


図1 評価点の変化(全体平均)

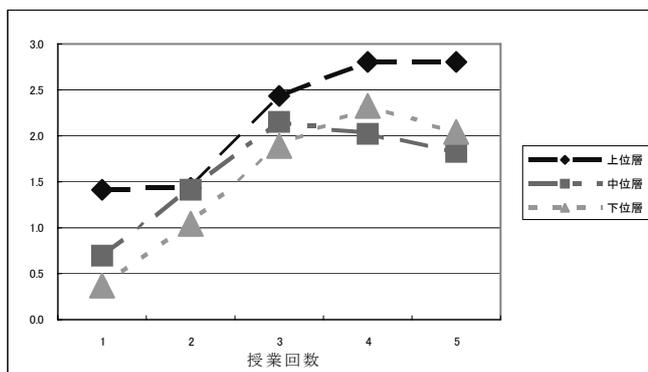


図2 評価点の変化(各層別平均)

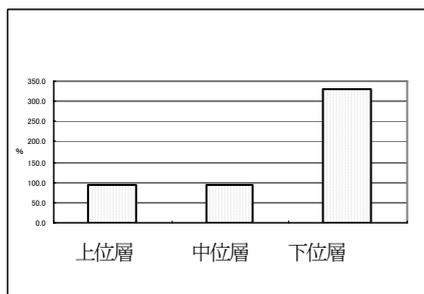


図3 評価点の変化率(各層別)

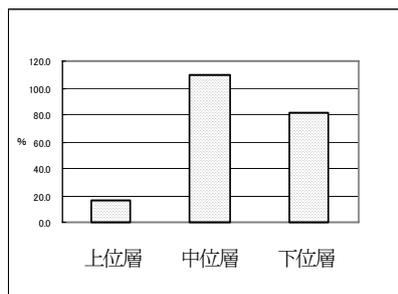


図4 論述テスト評価点の変化率(各層別)

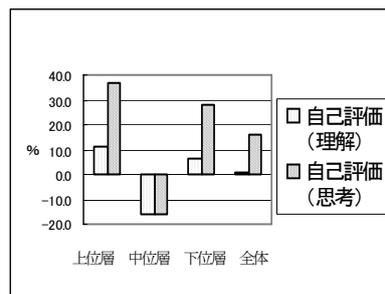


図5 自己評価の変化率(各層別)

1 成果

図1の評価数値の上昇が示しているように、生徒にとって思考をする機会を重ねた事で、客観的なものの考え方が身に付いてきたと考えられる。量的な点でも2回の授業実践の比較で、わずかではあるが付箋への記入枚数が増加した。図2・3は上位・中位・下位各層の生徒の評価点の変化の推移と変化率を表している。特に評価点の変化割合が大きかったのは下位層の生徒である。図4は論述テストの成績の伸び率を表している。上位層は元々論述の能力が高いことが影響してか伸び率が低いが、中・下位層は授業実践を行ったことによって論述テストの結果が大幅に向上している。図5は自己評価の変化を表している。図1～4が表しているように客観的な評価数値はどの層も概ね上昇している。特に図2、図4からこの実践はとりわけ中・下位層の生徒にとって有用だったと考えられる。

2 課題

(1) 上位層の生徒の思考力向上

中・下位層の生徒の伸びと比較すると特に論述問題を中心に元々能力の高い上位層の生徒の伸びが少なかった。能力の高い生徒の考え方を学び合いで多くの生徒に波及させることに重きを置いてきたが、今後は、上位層の生徒の思考力を向上させる方法を考えることが課題である。

(2) 思考支援のタイミング

授業を進める中で、客観的な考え方を生徒にどう伝えるのかタイミングに悩まされることが何度となくあった。教えすぎず、任せすぎず、生徒の気づきを促す工夫を更に考えていく必要がある。

公民科「現代社会」学習指導案

平成21年11月26日(木) 2校時

自然環境科 1年2組37名(男子21名、女子16名)

指導者 群馬県立〇〇高等学校 教諭 〇〇 〇〇

場所 〇〇高校大教室

1 考察

(1) 「思考力を高める現代社会の指導の工夫」について

今年度特別研修では「思考力を高める現代社会の指導の工夫」をテーマとして研究に取り組んでいる。研究協力校には大学進学を目指す者から中学時代の学習に課題を残した者まで、非常に多様な生徒が入学してくる。一方で定期テスト等の成績の良し悪しとは別に、客観的な思考を苦手とし現代社会の学習を進めていく上で重要な、社会的な事柄について自分の考えを持ってない生徒が大多数である。教科書に記載された事例等について意見を求めても、「そうになったら大変だ」・「よく分からないが怖い」など個人的な意見や感想については表現することができるが、それが社会や経済にはどのような影響を与えるかについては考えが及ばないのである。

そもそも生徒が社会的なものの見方や考え方ができない原因は、社会で起こっている様々な問題や事象について向き合い考える習慣や機会が無く、考える方法や道筋が分からないといった点にある。そう結論づけるのは、ある事象が社会に与える影響について道筋を示しながら教員が説明することで、ほとんどの生徒はその理屈を理解することが出来る様子を何度も目の当たりにしたからである。

今回こうした状況を改善するために、生徒が様々な角度の視点に立ち、抽象的・客観的な思考をする機会を授業に積極的に導入したいと考えた。授業の中では付箋紙を用いたKJ法を取り入れ、グループ学習で生徒がそれぞれの考えを持ち寄り、高められるような形態を導入することで生徒の思考力を引き上げたいと考えている。

(2) 生徒の実態

(省略)

(3) 今回の取組について

今回の授業のテーマは、「巨大台風の上陸で多くの被害が生じた場合の社会全般におけるマイナス要因とプラス要因について考える」というものである。一般的に考えて台風のような天災が起きた場合、マスメディア等による報道は人命に関する事や建物や道路の倒壊、崩壊など社会的にマイナスの要因を連想させるものが多くなるのは当然のことである。しかし単にマイナスでも、より踏み込んで考えてみると、「被害に遭った人はかわいそう」や「家が浸水して大変だ」などといった単に主観的・情緒的なものだけではなく、「復興に時間がかかれば経済活動が停滞し、税収も減少するのではないか」や「被害が多く出て倒産してしまう会社がどのくらいあるか」など社会全体に広がる影響を予測することができる。また天災時のプラスの要因は生徒にとってあまり想像したことがない事柄であると予測できるが、例えば「ある天災があったことで以降の対応計画が再考された」や「土木関連の業者は道路の復興で予期せぬ受注が相次いだ」などのことを考えることができる。

このテーマを設定したポイントは「天災時のプラス要因」を考えようとする、必然的に社会的な面に目を向けざるを得なくなる点である。つまりマイナス要因についてはいくらかでも主観的な意見を述べ連ねることが可能であっても、プラス要因はある程度理論的で客観的な思考をしないことには思いつかないということである。その思考過程において天災が社会にもたらす影響について幅広く生徒に考えさせていきたい。

2 指導目標

- ・ ある要因が社会に与える影響を多角的に考えさせ、社会的事象にはマイナスの要因とプラスの要因が存在することに気付かせる。
- ・ 段階を踏んで主観的・感情的な考えだけでなく客観的・理性的な考え方ができるようにする。
- ・ グループ学習を通し、他人の考えを参考にして自分の考えを再構築し新たな考えを導き出させる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の進め方についての説明をよく聞き、前向きに授業に参加している。 ・ グループ学習に主体的に参加し、自らの考えをグループのメンバーに伝えようとしている。
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象をプラスとマイナスの両面からとらえることができる。 ・ 友人の考えを理解し、それを元に自分の考えを再構築できる。
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを付箋に記入し、チャートを作成することができる。 ・ 自分の考えをグループのメンバーやクラス全体に発表することができる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天災の影響について、多角的・多面的に理解している。

4 指導方針

(1) 教員サイドからの助言は必要最小限のものとし、グループ内で生徒が相互に意見交換し、自分の考えを高めていけるようなものとしていく。

【手立て】グループングはこれまでの実践から得られたデータを参考に、周囲の生徒をリードする意見を出すことができる生徒が各グループに均等に分かれるようする。

(2) OHCやプロジェクター等のICT機材を活用し、生徒が思考する時間をできるだけ多く確保するとともに、様々な生徒の意見をクラス全体に周知し、生徒の考えを効率的に高めていけるようにする。

5 指導と評価の計画

指導目標	学習活動	学習活動における 具体的評価規準	評価方法	時間
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一見してマイナス要因の多い出来事の中にもプラス要因が存在することに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ「関東地方に台風が上陸したときのプラス、マイナス」について考える。 ・ 自分の考えを付箋に記入する。(プラス1枚、マイナス2枚) ・ 付箋をグループ毎に分類する。(KJ法) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマに関心をもち自分の考えをまとめようとしているか。 ・ 自分の考えを付箋に記入できているか。 ・ KJ法の分類作業にかかわろうとしているか。 	観察 ワークシートの提出 観察	1
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の取組で出された意見をまとめて生徒に示し参考にさせることで、個人でも客観的な考えをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時のテーマを確認し、説明を聞く。 ・ 付箋を用いチャートを完成させる。 ・ 自分の意見を発表する。(発表された意見を聞く) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時を振り返り、本時の学習に積極的に取り組もうとしているか。 ・ 自分の考えをまとめ、チャートを完成させようとしているか。 ・ 他人の意見に耳を傾け、自分の考えをさらに高めようとしているか。 	発問への返答の様子を観察 ワークシートの提出 生徒の自己評価(ワークシートの提出)	1 (本時)

本時の学習指導

1 本時のテーマ 「天災のプラス面とマイナス面」

2 本時の指導目標

- ・ ある出来事が社会に与える影響についてプラス、マイナス両面から考えられるようにする。 【思考・判断】
- ・ ある出来事が社会に与える連鎖的影響について、自分の考えをチャートにまとめさせる。 【技能・表現】
- ・ 他の生徒の考えを参考にして自分の考えを再構築したり新たな考えを導き出したりして理解を深める。

【知識・理解】

3 本時の評価規準

	満足出来る	十分満足できる
関心・意欲・態度	学習内容を理解し、自分の意見をもとうとしている。	学習内容を理解し、自分の意見をもとうとすると共に、他人の意見のよいところを取り入れようとしている。
思考・判断	天災についてプラス、マイナス双方の側面から考えられる。	天災以外のすべての社会的事象についても、プラス面とマイナス面双方から考えられる。
技能・表現	自分の意見を付箋に記入し、チャートを完成させられる。	自分の意見を付箋に記入し、チャートを完成させられる。またその内容を発表できる。
知識・理解	天災が社会に与える影響にはプラス面もあることを理解している。	天災が社会へ与える影響を多面的・多角的に考え理解している。

4 準備

授業ファイル、ワークシート、付箋（1人10枚）

5 展開

過程	時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点	評価規準の 具体的状況	評価方法
導入	10	・ 前時の復習。説明を聞き、本時の学習内容について理解する。	・ 前回の授業で生徒から出された意見を紹介し、個人での取組の参考となるようにする。 ・ テーマ以外の事柄についても触れることで様々な物事に応用できることを気付かせる。	・ 本時の学習内容に関心を示し自分の考えをもとうとしているか。 〔関心・意欲・態度〕	観察
展開1	20	・ 自分の考えを付箋に記入する。 ・ 記入した付箋を使用しチャートを完成させる。	・ 記入が進まない生徒に対してアドバイスする。 ・ チャートの作成について、発展的な意見を多く出した生徒にはプラス、マイナスという視点だけにこだわらず、それぞれが密接に関連していることに気付くようアドバイスする。	・ 自分の意見を付箋に記入しチャートを作成しようとしているか。 〔思考・判断〕 〔技能・表現〕	ワークシート 提出 観察
展開2	15	・ 発表する (発表を聞く)	・ 生徒の発表後にどんな点が優れていて着目すべきかコメントし、生徒の理解を促す。	・ 自分の意見を他の生徒に伝えようとしているか。(他人の意見を聞き参考	観察

				にしようとしているか) 〔技能・表現〕 〔関心・意欲・態度〕	
まとめ	5	・まとめの記入と自己評価を行う。	・まとめの記述も評価の一部であることを説明し、新たな発見などについて記入させる。	・振り返りを行い、新たな気づきを記述できているか。	ワークシート 提出



前回のテーマ

巨大台風が日本に上陸
マイナス面とプラス面
を付箋に記入せよ

その前にこれを見て

※ 台風上陸時の報道映像が挿入されています。
(著作権の関係で掲載できません)

マイナス面は分かりやすい

～前回の意見より抜粋～

- ・家が倒壊するかもしれない
- ・人命が奪われる
- ・会社が潰れるかもしれない
- ・交通が乱れる
- ・観光地に人が来なくなる

災害にプラス面などあるのか？

～前回の意見より抜粋～

- ・建築業界は修理の依頼が増加
- ・防災用品を扱う会社の利益が増加
- ・仮設住宅を建てる会社
- ・被災地に対する支援物資を作る会社
- ・学校が休みになる

もっと踏み込んで考える！

今日のポイント①

プラス面＝金儲け
だけではない！

もっと踏み込んで考える！

台風被害の教訓から・・・

- ・非常時の対応を家族で話し合った
- ・市町村が防災計画を作成した
- ・洪水対策のためにダムを建設した

→これらもプラス面

もっと踏み込んで考える！

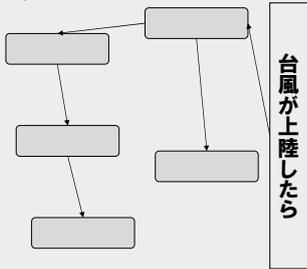
今日のポイント②

プラスとマイナスは混在してもOK

イメージ

プラス

マイナス



もっと踏み込んで考える！

台風が上陸する



人が亡くなるなど大きな被害 -



堤防の補強工事が行われる +



工事の業者の利益が増加 +

今日やること

- ①付箋を1人10枚受け取る
- ②台風が上陸したら・・・に続き
『プラス面の連鎖を5枚』
『マイナス面の連鎖を5枚』
記入し、チャートを作成

時間

20分